

数学

名古屋大学 理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部

(自然情報学科、コンピュータ科学科) (前期) 1/1

<全体分析>

試験時間	150 分	解答問題数	4 題
------	-------	-------	-----

解答形式

全問 論述式.

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

全問小設問によって構成されている.

理科系は文科系とほぼ共通問題だった.

その他トピックス

数学Ⅲの微分法・積分法からの出題がなかった.

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	微分法と積分法	数学Ⅱ	2つの放物線の共通接線. 放物線およびその接線を境界にもつ領域の面積.	やや易
2	対数関数 高次方程式	数学Ⅱ	対数の性質の利用. 3次方程式の解と係数の関係および3次関数のグラフ.	やや易
3	確率	数学A	石の移動に伴う状況分析 (ルール・条件のもつ性質を発見).	やや難
4	数列	数学B	ガウス記号を含む漸化式で定義された数列に関する証明.	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

大問4題の中に、分析力、思考力、論述力を試す問題が組み込まれている。典型的な計算・証明も含まれる一方で、状況をよく観察、分析し、構想する力、および与えられた条件や目標を念頭に置いて式を扱う力が必要となる問題もある。

以上のことを踏まえて日頃の学習においては、正答を理解し習得することだけでなく、自ら考え方針を立て、作業するという試みにより、時には失敗したりしてその原因を探り、次の試みを考えるという学習が必要である。解答作成時間150分を意識して、題意を把握し、方針を立て、作業するという一連の流れを落ち着いて実行することが大切である。